

# 避難の浪江町

二本松で  
サイクリング大会



阿武隈川沿いの道路を快走する  
(左から) 熊本、椀台、永田さん

台さんと熊本さんも「機会があれば、いろいろな所を巡りたい」と自転車の魅力につかれた様子。  
主催した「にほんまつサイクリング協会」は当初、風評被害により参加者が見込めないとし、中止も考えた。県外からは一人だけだったが、全体では予想の三倍以上の人が集まった。  
会長の井上善夫さん(六三)は「新たに『手をつなごう二本松』のスローガンを付け、ゼッケンにも入れた。自転車を愛する仲間が会津や県南からも訪れた。協力してくれた皆さんに感謝したい」と舌を弾ませた。

## 会津地方の芸術家10人

## 古里復興への願い…作品通じ長野で発信

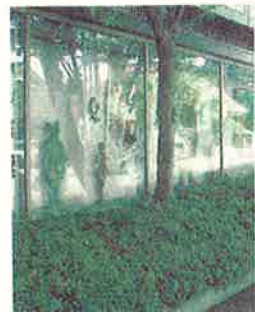


ギャラリーに展示されている作品

美術と観光の町として知られる長野県小布施町に、会津地方の芸術家10人の作品が並ぶ。東日本大震災復興の願いを込めた会津からのメッセージを、30日まで発信している。

会津美術協会は4月、会津若松市文化センターで復興支援のチャリティー展を開催。活動をインターネットで知った小布施町の観光関係者が感動し、同町での作品展を企画した。同町で作品展を開いたことがある会津若松市の彫刻家、若杉儀子さん(67)が協力を求められ、会津地方の美術仲間に参加を呼び掛けた。彫刻、絵画、工芸、書道家10人が賛同。「鎮魂」「つながる心」「前向き」など思い

小布施町内、30日まで



が込められた作品7日に作家自らギャラリーに展示りから眺めること「遠く離れていてつにするきっかけ

## 岡

### 郡山の主婦と編み物で交流

郡山市婦人団体協議会は十八日、市内富田町の仮設住宅集会所で編み物教室を催し、富岡町の入居者と交流した。会

は、木下美穂(三十三)



四色の毛糸を使い、カラフルでふわふわのクッションに仕立てた。前回

加者の要望に応え企画した。毛糸のクッション作りをテーマにし、日本編物文化協会の菅野和子さん(六三)を講師に迎えた。女性二十人が参加した。

仮設の児童生徒に大学生が学習指導  
NPO法人・MPI  
学生の学習・就職活動支援などを目的に活動するNPO法人MPIのメンバーは十七日、浪江町の避難者が住む福島市の笹谷東部仮設住宅の集会所を訪れ、子どもたちに勉強を教えた。



大学生の指導で勉強に打ち込む子どもたち  
MPIの東日本大震災復興支援プロジェクトの学生代表、小林直子さん(早稲田大三年)は「感謝の言葉をもらいうれしい。継続して教えていきたい」と話している。

## 避難先から

◇猪苗代町・ホテルリス  
テル猪苗代▼双葉町、無職  
鈴木美代さん 88 郡山市  
内の借り上げ住宅に移るこ

とが決まった。一人暮らしになるが、2次避難所で知り合いになった人たちが周りに住んでいることが分かる。外の日陰で友人と話して過ごしている。野菜作りができないのもつらい。早く土壌を元に戻してほしい。



くなる。も暑く、日中は家の中に居られない。外の日陰で友人と話して過ごしている。野菜作りができないのもつらい。早く土壌を元に戻してほしい。